



四旬節に向けて

シスター小野島照子



「四旬節」は、洗礼の恵みを思い起こし、原点に立ち戻ることへの招きではないでしょうか？ そこでイエスの受洗に焦点を当ててみたいと思います。

イエスは、ヨハネから洗礼を受けた直後、「神の霊が鳩のようにご自分の上に降って来るのをご覧になった。そのとき、『これはわたしの愛する子、私の心に適う者』と言う声が、天から聞こえた。」（マタイ3/16～17）イエスが御父にどれほど愛され親しい愛の関係にあるか、そして御父からイエスに託された使命を意識され、それに応える決意を表明された瞬間だったでしょう。洗礼の恵みで、神の子としての使命への応答をはっきりと自覚されたイエスは、受けた神の霊によってご自分に託された使命を果たす「派遣」を生きる道を進み始められました。

この派遣に生きるイエスは、まずこの霊に導かれて荒れ野に行かれ、悪魔の試みに会い、40日40夜断食し、専心の時を過ごされ、御父との親しい絆を深めると同時にこれからの生涯に出くわす誘惑も体験され、その誘惑を退けることを学ばれ、御父の道を選び取り宣言されたのです。イエスのこの決断は生涯ぶれることはありませんでした。

荒れ野から戻り福音宣教を開始するに当り、神の霊に導かれて、共に働く仲間として弟子達を招き、彼らに御父の愛を教え、養成し、喜びの知らせをまず同胞に、後に異邦人にも伝えるよう彼らを派遣されました。この神の霊によってイエスは、民族国境宗派を越え全人類の救いの為にご自分の血の最後の一滴までも捧げられたのです。イエスは受洗の時に受けたこの神の霊に導かれて、受難と死を担い、それによって復活の実現があり、聖霊降臨により教会共同体の誕生があり私達も招かれました。

この全被造界の救いのために、創造主なる御父の愛のご計画の実現のために今なお働き続けるイエスに日々見惚れて生きるよう私達も招かれ洗礼の恵みをいただきました。私達も受けたこの洗礼の恵みの原点に立ち戻り、特に四旬節の間に、霊の導きに素直に従い、現代の荒れ野を体験し、拙い祈りと断食を捧げて神の霊を識別出来るようお願い求め、各自招かれた道を歩み続けられますように！ 今こそ自分の計画ではなく、心をくると方向転換して御父の夢の実現に向かうキリストの救いのみ業の協力者となれるよう願う回心の時としましょう。私達も無から造られた被造物であることを謙虚に認めて生きられるよう灰をかぶって四旬節を始めましょう！

家族フェスタのご報告

11月20日(参加者 約130人)

11月20日9時30分、「愛は家庭から…これはわたしたちの使命です」をテーマに「沖に漕ぎ出して」を全員で歌い、白浜司教様のメッセージから始まりました。司教様はキリスト者の家族は、社会を生かす細胞であり、同時に、小さな教会としての役割を担っている基礎的な共同体、その使命を果たしていくため、家庭に委ねられた使命について無償の愛を証する『亡くなったお母さんからのビデオレター』のエピソードを交えて伝えてくださいました。

司教様のメッセージに涙を流された方も多く家庭について大切なメッセージを私達に与



えてくださいました。

10時からのワークショップはどの担当の方も前日から準備をしてくださり、クリスマスカード・フェルトマスコット・クリスマスリース作り・お餅つきと各会場満員でフィリピン・ベトナムの方も参加され、皆さん、大きな家族を思いやりを感じながら楽しいひと時を過ごしました。出来たものは個性的でステキなものばかりでした。

正午からそれぞれに分かれて昼食、フィリピン・ベトナムの方は料理を持ち寄り、お餅グループからはおしろこ、黄な粉餅、大根おろし餅をみなさん美味しそうに分ち合っていました。

午後1時からは子どもグループ、幼児の保護者、小中高生の保護者、子育てを終えた家族、ひとり家族、他の宗教をもつ家族、英語等で話すグループに分かれて分かち合いをしました。

子どもグループでは、久保神学生が子ども達にアートバルーンを作る楽しさを伝えてくださり、幼児の保護者では聖母幼稚園村上先生に

お話をしていただき 11 名で分かち合いが出来ました。

今回いろんな方が助けてくださり、大西助祭は幼稚園の保護者・先生の有志の方とクリスマスカード・フェルトマスコットを準備してくださいました。バザーでも幼稚園の先生に協力していただきました。お餅つき・クリスマスリース作りも Sr メリーをはじめ多くの方が関わってくださり、それぞれのタレントを活かして協力頂き、参加された方は優しさと思いやりの中で楽しい時を過ごすことができたと思います。

本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

司教様がメッセージの最後に言われた『私達も神の家族一員として、それぞれの立場で、自分にできる固有の役割(召命)に目覚め、互いに協働して、神の愛と福音を伝える「平和の使徒」』に関わった方ひとりひとりが体験できた一日だったと思います。

今回いろんな多くの出会いがあったように思います。この出会いがもっと大きな家族に発展していけばと思います。

(H)



財務委員会

ステファノ TE

財務部の時から、今の財務委員会のメンバーであるKさんやTさんと一緒に教会の財務を担当してきました。会計は女性信徒の方々が、第1と第3週を担当するグループと第2と第4週を担当するグループ(5週目は交替で担当)に分かれ、日曜日のミサ後に教会の維持費やミサ中献金、一粒会や聖堂補修・維持献金等、金額の集計や台帳への記入を担当して下さっています。会計をお手伝いしている方々は日曜のミサ後に行われる様々な行事や特別な催しがある時でも、担当する週の会計の時には会計を優先して行って下さるので会計業務が滞ることがありません。会計担当者は責任感が強く、集計や記帳ではミスがないよう確認作業を二度三度と組み入れた作業を行っています。維持費など納めて下さる信徒の中には、表書きの金額と袋に入れた金額が合わない方が時々ありますが、担当者はその都度、会計の処理をどのように行ったかをわかりやすく説明するお手紙を書き、維持費の袋につけてお返ししています。そのため時には会計が終わるまでに2時間以上かかってしまうこともあるようですが、そのような時でも皆さんは笑顔で会計が無事終了したことを喜ばれていると聞いています。財務委員として今後会計業務の負担軽減に取り組んでいきたいと考えています。信徒の皆様も維持費の納入の仕方について提案等ございましたら財務委員会までご連絡ください。

信仰の先輩と対面

K I

11月26日、聖体授与の臨時の奉仕者の新旧交代の集いをもって、JTさんCKさんと共に4年間の任期を無事終えることが出来ました。

ミサにおける奉仕は聖なる緊張の連続で、「キリストの御からだ」と唱えて聖体を皆さんの手のひらに少し力を込めて置く、その一瞬の心の動き・脳裏を駆け巡る言葉に大いなる神のいつくしみを感じておりました。

また、ミサに来られない病者や高齢の方へご聖体をお運びする奉仕は、自分の信仰の未熟さで身震いすることも多々ありましたが、ご聖体を心待ちにしておられる信仰の先輩と身近に接することで大きな恵みを頂きました。

信者でない家族の前で、老人施設の多くの病者や職員の前で、カトリックの信徒であることを証し、我々奉仕者を迎えてくださる信仰の先輩の姿に接することで、慰められ力づけられて帰路につく恵まれた4年間でした。その間に、3名の方の臨終間近の姿にお目にかかり、帰天の報に接して葬儀に立ち会うこともありました。

2か月に1回の奉仕者の集いでの奉仕者メンバー全員の体験の分かち合いは、苦勞された体験談の中にも、感動的な信仰の喜びのお話の中にも神様からの恩寵がにじみ出ており、

毎回「神に感謝!!」の内に時間切れを迎えておりました。

最後に、この貴重な体験の機会を与えてくださった皆様に感謝を申し上げます。

記者の目【 聖堂保存工事 】

昨年11月より耐震を中心とした、聖堂保存工事が始まっています。聖堂の出入りは本来、特別な時にしか開かれないはずの中央扉を使用しており、聖堂内にも足場が設置され、信徒席の配置も変わり、席数も随分と少なくなっています。

パイプオルガンは使用できず、フットペダルオルガンを使用し、合唱隊と共に信徒席の中で演奏されています。

この状態は、今年度の工事終了3月末まで続きます。総事業費10億円！重要文化財の指定を受けているので、かなりの部分を国・県・市が負担されるのですが、内4億円は私たち教会で捻出しなければなりません。広島教区の方々の協力を得ながら、主体である幡町は特に努力が必要です。

国(文化庁)の予算の都合上、予算を3年間に分割されているため、この先2年間は工事が続き、不自由な中での聖堂使用となります。

“平和の礎”として建てられたこの聖堂の心意気を大切にしながら、保存も皆で努力致しましょう。

****たくましいサービスに感謝****

足場、柵などが設置され、所狭しとなる中、ミサ後の“コーヒーサービス”が続いています。ボランティアの方々のたくましさにも驚きながらも、コーヒー好きの記者は感謝の念でいっぱいでございます♪。(´▽`) (の)



編集後記 聖堂の工事が始まったある日のミサ中、聖堂入口に席に座れない方が多く見受けられました。少しずつ詰めれば座ることができるのですが、誰かが来ないと詰めにくいものです。また、ミサ中は中央通路を進みにくいいため、ミサが始まる前になるべく前列から席に着いていきましょう。(か)